

エアリィ

Association for International Relations in Yamagata

2023年12月

vol.102

外国人向け防災体験会を実施



阪神淡路大震災と同じ震度7の揺れを体験



119番通報を体験



火事の際、煙が充満する中で避難



消火器の使い方を学ぶ

写真：9月28日放送 YBC news every.

県内に住む外国人を対象に、災害の基礎知識や防災の重要性を学ぶ体験会を山形市市民防災センターで実施しました。フィリピンやインドネシア、インド、米国、韓国等出身の外国人等が参加し、初期消火や煙からの避難、地震の揺れなどを体験しました。

特集1 ブラジル山形県人会創立70周年……4P

特集2 国際交流員 儲金爽さんに聞く 中国黒龍江省のあれこれ…5P

アミン・ヌハエリさん (山形市在住、モロッコ料理専門店経営)

■ どういう経緯で山形にいらっしゃったんですか？

妻の転勤をきっかけとして、2021年12月に山形市へ引っ越してきました。こちらに来てから2年くらいになります。また去年の10月に山形市七日町で「カフェ・ド・マロック」というモロッコ料理専門店を始めました。新しい町に来て生活するのは一番楽しいです。いろいろな新しい体験ができるので。

■ お店ではどんなお仕事をしていますか？

調理から接客まで、全部ひとりで対応しています。自分で料理を作ってお客様に出すことが喜びです。タジン鍋やクスクス(細かいパスタ)など、いろいろなスパイスが入った本格的なモロッコ料理を是非食べに来てください。モロッコにいたときはカサブランカのホテルでコックの仕事をしていましたが、自分の店を出すのは初めてです。モロッコ料理のレストランは東北でここしかないんですよ。1か月に1回、ベリーグダンスのショーも開催しています。

■ 山形の生活はいかがですか？

必要なスパイスも近くのスーパーで手に入りますし、生活に問題はありません。今は「自分のお店を持って働く」ということが楽しいです。まだ友人が少ないので、なじみのお客さんと話をしたりしています。



お店のようす

café de maroc
住所：山形市七日町 1-2-56 電話：023-666-8864

県内国際交流関係団体へのインタビュー

酒田市国際交流協会

事務局長 今野紀生 さん

■ 酒田市国際交流協会とはどういう団体ですか？

クルーズ船の寄港や東京オリンピック・パラリンピックホストタウン事業を契機とし、市内の国際交流の活動に関する「人」と「情報」のプラットフォームとなるため、令和元年6月に当協会が発足しました。事務局を酒田市役所の交流観光課に置き、対外的な交流やインバウンド対応などを中心とした活動を行っています。

■ 酒田市国際交流協会はどんな活動をしていますか？

観光交流や姉妹都市間交流促進のため、地元ならではの視点で酒田の魅力を英語で紹介する動画コンテストを実施しているほか、インバウンド観光客増加に伴い、外国語による観光ガイドの需要が高まったため、設立当初に地域通訳案内士制度を導入し、「北庄内地域通訳案内士」のスキルアップを目的とした研修も開催しています。動画コンテストでは、実際に姉妹都市であるアメリカのデラウェア市に審査に携わっていただき、北庄内地域通訳案内士の皆さんにはクルーズ船の対応などでご活躍いただいております。また、例年「インターナショナル」を冠したイベントを実施しており、海外出身者などのゲストプレゼンターが、自

国・地元の文化や体験を紹介するトークショーなどを行っています。こちらも市民、会員の皆さんが国際的な交流に参加する良い機会となっています。

■ 若い方の参加が多いようです

クルーズ船の受入れについては最初から地元の高校生を巻き込んだ活動を行っていました。高校生によるおもてなしが外国の方には好評で、酒田の印象が良くなったと聞いています。そのほか動画コンテストなど、当協会のイベントには市内の若い方から多く参加してもらっています。今後は市民の皆様が国際交流がより深く浸透していけばと考えています。



令和4年度「酒田の魅力紹介 in English 動画コンテスト」表彰式のようす

中国からのCIR、 儲金爽さんが着任しました

山形県の皆様、大家好(ダージャーハオ)! 中国東北部に位置する黒龍江省チチハル市出身の儲金爽(チョ キンソウ)です。中国の大学で日本語を専攻し、2年間東京に留学しました。その後、中国大連外国語大学の大学院に進学し、日本語の翻訳を専攻しました。また2020年に黒龍江省チチハル市人民政府外事弁公室で日本との友好交流に関する仕事に携わってきました。



今回は9年ぶりの日本生活で、もう一度日本を自分の肌で感じたい気持ちでいっぱいです。また、山形県のみならず、奥深さを体験し、山形県の皆様と触れ合うことを期待しております。中国の民族風情、衣食文化や皆様の興味のある話題についていろいろ紹介させていただきたいと思います。

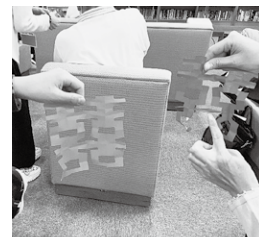
これからどうぞよろしくお願いいたします!

とびいりワールドカフェ 「中国出身CIR歓迎会スペシャル」

約3年半ぶりに中国から来日したCIRを歓迎し、とびいりワールドカフェを開催しました。最初に儲さんが中国の地理、人口、食、年中行事などについて紹介した後、中国のおやつタイムをはさんで、後半は皆で切り絵を楽しみました。

「儲さんが日本に来たとき、家からここまでどれくらい時間がかかりましたか」「今、中国で流行っている音楽にはどのようなものがありますか」「中国で買い物をするとき、ほとんど現金を使わないというのは本当ですか」など、たくさんの質問が出されました。

チャイナドレスを試着して撮影会が始まるなど、にぎやかな歓迎会になりました。



切り絵を作って楽しむ

外国人労働者マネージャー ミーティングを初開催

生産人口の減少による人手不足等を受け、県内の各産業において外国人を雇用する企業が増加しています。山形県外国人総合相談ワンストップセンターの企業向け外国人相談窓口では、外国人を雇用する際の手続き等に加え、外国人が働く環境整備に関する相談にも対応していますが、相談者から「外国人の雇用について悩みや課題を共有する場がほしい」との要望があったことから、この度初めて外国人労働者マネージャーミーティングを開催しました。

企業向け外国人相談窓口の専門相談に対応している県行政書士会をアドバイザーとして迎えて、外国人労働者を雇用している製造業やサービス業の管理職が外国人採用のきっかけ、外国人を雇用して良かったこと、外国人を雇用する悩みや課題などについて意見交換を行いました。参加者からは「他社の事例を知ることができ大変参考になった」との声が寄せられました。



2023年後期AIRY日本語教室

後期日本語教室は8月から12月まで、JLPT(日本語能力試験)N3合格クラスと中級クラスを開講しています。N3合格クラスは8名、中級クラスは4名の学習者が勉強しており、「レッスンは毎回楽しいし役に立つ」「たくさんの新しい言葉や文法が学べる」と意欲的にレッスンに取り組んでいます。

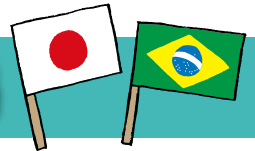
取材をした日のレッスンでは日本語習得において難しいとされる使役(れる、られる)を学習しており、先生の示すイラストを見ながら徐々に上手く言えていく様子に驚きました。「N3取得後はN2合格を目指したい」、「日本で働きたい」とそれぞれの目標は違いますが、同じ日本語習得という夢に向かって日々学習しています。



N3合格クラスの様子

特集1

ブラジル山形県人会創立70周年記念式典



今から100年以上前の1908年(明治41年)、本県からブラジルに向けての集団移住が始まりました。その後1953年(昭和28年)にブラジル山形県人会が山形県同郷會として創立され、今年でちょうど70年になります。その記念式典が10月29日にブラジルのパラナ州ロンドリーナ市で盛大に催され、山形県からは吉村知事などが来賓として出席しました。



70周年記念式典で祝辞を述べる吉村知事。式典には約300人が参加し、林禎二駐ブラジル日本国大使やブラジル連邦下院議員、パラナ州議会議員ら多数の来賓が出席。ペルーとパラグアイの山形県人会からも代表者が参加しました。



式典終了後に鏡割りを行う吉村知事、森田県議会議長、山本天童市長、安孫子JA山形中央会副会長理事、佐藤マリオ・ブラジル県人会会長、林大使、濱田在クリチバ日本国総領事とブラジル側来賓。鏡割りの後は参加者全員で乾杯を行いました。



28日には県訪問団を迎え近郊アサイー市で昼食会が催されました。同市市長や地元の日系人・県系人など約100人が参加し、市内の農場で採れたみかんジュースや同日早朝から4時間かけて焼いた豚の丸焼きなどが振舞われました。



28日夜に開催された歓迎夕食会で県人会ロンドリーナ支部婦人部の皆さん、式典会場を提供した吉井篤氏夫人の貴美子さん(前列右)と吉村知事。夕食会では同婦人部が用意した食事に舌鼓をうち、参加者が親睦を深めました。

山形県人移住のあゆみ

1908年(明治41)4月28日、移民を乗せた「笠戸丸」が神戸を出港し、6月18日、ブラジルのサンパウロに到着したところからブラジル移住の歴史が始まります。日本人の集団移住は1868年(明治元)のハワイ移住にはじまり、続いてアメリカ本土やカナダ等に広がりました。しかし排日運動が深刻化し、アメリカやハワイ等への移住が禁止され、次の移住先となったのがブラジルでした。

最初の移住者の多くはコーヒー園の契約労働者として入植しました。移住者の斡旋はすべて民間で行われていましたが、日本政府が積極的に移住を推進したのは1924年(大正13)以降で、その最盛期は1933年(昭和8)～1934年(昭和9)、この間に年間2万人を越す人が移住しており、1908年から1941年まで約19万人がブラジルに渡っています。

「笠戸丸」には大石田町出身の高桑治平が乗船しており、正式に入国した山形県移民の第1号とされています。しかしその1年半前には大石田町出身の鈴木貞次郎がブラジルに入国し、移民の先駆としてコーヒー園労働の体験をし、笠戸丸移民が到着した際には通訳をするなど、日本人移民の草分けとして尽力しています。彼らを筆頭に、山形県からの移住者は1906年(明治39)から1978年(昭和53)までの間に5,826人になります。

Q. 黒龍江省ってどんなところですか？

黒龍江省は中国で最も緯度が高い省で、総面積は47.3万km²(全国第6位)、総人口は3,099万人です(データ:黒龍江省人民政府公式サイト)。気候は大陸性モンスーン気候で、夏は暖かく雨がたくさん降りますが、冬は-30℃ぐらいまで気温が下がることもあります。とても寒いので、外套の他、厚い帽子や手袋、マフラーで重装備し、目だけ出して外出します。

冬には省の各地で「氷祭り」というイベントを行っており、大規模な氷や雪の彫刻を見ることができます。自然保護区では東北虎(アムールトラ)やタンチョウヅルを見ることができ、北端の市ではオーロラを鑑賞することができます。

Q. 黒龍江省の省民性について教えてください。

黒龍江省の人は親切で素朴、また情熱的で裏表のない性格だと言われており、お客さんを温かくおもてなしすることで有名です。例えば外国人が省都のハルビン駅で大きな荷物を持って困ってれば、サッと助けてくれる人がたくさんいるでしょうね。よく笑い、おおらかな性格の人も多いと言われています。

Q. 黒龍江省でお薦めの食べ物はありますか？

私の故郷チチハル市のバーベキューです。牛肉やソーセージ、ジャガイモ、ホウレン草などを炭で焼き、大豆やピーナツ、クミンで作られたタレを付けて食べます。黒龍江省は畜産業が盛んなので、おいしい牛肉がたくさん売られています。他にはハルビンのビールや赤ソーセージ、大興安嶺のブルーベリーも有名です。街を歩いていると屋台で牛の串焼きや、サンザシなどの果物を飴がけにした糖葫芦(タンフルー)を買うこともできます。

Q. 黒龍江省では今どんなことが人気ですか？

とても寒いところなので、スケートやスキーを楽しむ若い人がたくさんいます。一部の学校にはスケートリンクがあり、スケートの授業を行っています。また中国ではどこでもそうですが、黒龍江省でもTikTokというSNSが流行っています。好きな食べ物の動画を投稿したり、TikTokを通じて洋服や化粧品を販売したりする人もいます。私も笑い話や映画紹介などの動画をよく見えています。

※ 儲さんについては3Pの記事をご覧ください



タンチョウヅル



冬の黒龍江省



ハルビンの中央大街

中国東北部の三省とは、戦前に満蒙開拓団として本県より17,000名余が派遣されていたことなどから、以前より深いつながりを有していました。1992年には黒龍江省のハルビンから酒田港に到る「東方水上シルクロード」が開設されるなど経済交流も活発となったことなどから、県は1993年8月に黒龍江省と友好県省を締結しました。以来、人的交流はもとより、経済、教育、スポーツなどの交流が着実に拡大してきています。

今年度は山形県と黒龍江省が友好県省締結30周年を迎えます。更なる交流を促進し友好の絆を深めるため、山形県ハルビン事務所が県のPRや各種交流を行っているほか、青少年オンライン交流・囲碁交流などの事業が企画されています。

■黒龍江省の概要

黒龍江省は中国東北部に位置し、天然資源に恵まれ、農業、工業が盛んな省です。

省中央部から東北部には肥沃な平原が広がり、大豆、水稲、小麦、トウモロコシ、馬鈴薯などの生産が盛んです。このため、黒龍江省は「北大倉」(北の大穀倉地帯の意味)と呼ばれ、中国の穀物生産基地の一つとなっています。

工業では、豊富な天然資源を背景に、重工業が発達してきましたが、近年は、紡績産業や食品工業などにも力を入れており、目覚ましい経済発展を遂げています。



外国人材受入れセミナー 「スペシャリスト企業に聞く！外国人材受入れの極意」

県国際人材活躍・コンベンション誘致推進課は7月、外国人材の受入れに興味のある企業間のコミュニティ形成を支援し、企業の国際化を推進するため、外国人材を積極的に採用している県内企業の経営者4人をパネリストに迎え、これまでの取組や体験談などをトークテーマにしたパネルディスカッションを実施しました。

(株)八幡自動車商会の池田等社長は、「当社では外国人社員が多くの業務を担っており、まじめで残業もいとわず働いている。人口が減っている中、経済を何とかしていくためには、優秀な外国人を積極的に受け入れていった方がよい。」と語りました。(株)エム・エス・アイの金子昌弘社長は「外国人を採用した場合、短期間で離職するのではないかと心配する声を聞くが、少しでも長くいたいと思われるような会社を作っていく努力が必要だ。」と訴えました。

ミクロン精密(株)の榊原憲二社長は「外国人を採用したメリットが大きいと感じるのは、特殊な技術用語や仕様の細部を理解している自社の中国人社員が現地に出張し、中国語で顧客とやりとりできることだ。」と話しました。スズキハイテック(株)の鈴木一徳社長は「6か国計60名の外国人社員を雇用しており、生活、住居、子供の教育、運転免許の取得など多方面にわたるフォローを行っている。外国人に限らず、現在採用は先輩後輩の繋がりが多い。」と説明しました。

山形県内における外国人材受入れについて、現状、ノウハウ、今後の課題など、実績に基づいたお話を伺う貴重な機会となりました。



セミナーのようす

国際交流サポーターの活動紹介

当協会では国際交流及び多文化共生の社会づくりに関する幅広い分野の活動を促進するため、国際交流サポーター制度を設置しています。

今回は高校生のサポーターからギニア出身のシセさんに、日本語で折り紙の折り方を教えていただきました。サポーターは「手裏剣しか折ったことがなかったけれど、日本独自の折り紙を教えることができよかった。説明もうまくできたと思う。これからは学校以外の色々な方面に目を向けていきたい」と感想を述べていました。

シセさんは学校で勤務していますが、「子ども達と折り紙で交流したい」とサポーター制度を利用しました。また「自分の国に帰った時、子ども達に折り紙を通して日本文化を伝えたい」と夢も語っていました。「独りでは本を見てもどこから始めたらいいのかわからなかった。わからない細かなところも聞いてよかった。本を見ながら独りでやるよりも、誰かと一緒にやるとモチベーションも上がる。これからは今回のレッスンを参考にし、自分で本を見ながら折り紙を折っていきたい」と話していました。

国際交流サポーターにはイベント等の通訳を行う「語学」のほかにも、「日本語学習サポート」「ホストファミリー」「イベント協力」「国際理解」のように、外国語が話せなくてもできる活動があります。是非サポーターとして活躍してみませんか。登録方法などの詳細については、協会HPをご覧ください。



完成した折り紙とともに

県外国人総合相談ワンストップセンターの専門相談

外国人相談窓口及び企業向け外国人相談窓口では、多様化・専門化する相談へ対応するため、山形県弁護士会、仙台出入国在留管理局及び山形県行政書士会による専門相談日を設けています。相談は無料ですのでお気軽にご連絡ください。

外国人向け法律相談（要予約）

「借金」「離婚」「相続」など、さまざまな法的トラブルの相談に対応します。

- ◎ 担当：山形県弁護士会所属弁護士
- ◎ 日時：毎月第4金曜日 10:00～12:00
- ◎ 対象：山形県在住又は勤務の外国籍の方
- ◎ 対応言語：日本語 英語 中国語 韓国・朝鮮語 タガログ語（他言語については応相談）
- ◎ 電話：023-646-8861



仙台出入国在留管理局の相談会（要予約）

- ◎ 出国・再入国・帰国・在留資格などの相談に対応します。
- ◎ 担当：仙台出入国在留管理局
- ◎ 日時：偶数月（2、4、6、8、10、12月）の第3金曜日 10:00～12:00
- ◎ 対象：山形県在住又は職場が県内の方
- ◎ 対応言語：日本語 英語 中国語 韓国・朝鮮語 タガログ語（他言語については応相談）
- ◎ 電話：023-646-8861



行政書士会相談会（予約不要）

外国人を雇用する際の手続き、在留資格の取得手続きなどの相談に対応します。

- ◎ 担当：山形県行政書士会
- ◎ 日時：毎月第2水曜日 13:00～16:00
- ◎ 対象：山形県内の企業
- ◎ 電話：023-645-7600



ちょこつと

JICA JICA海外協力隊 個別相談サロン ぜひご利用ください☆

あなたのもつ可能性とJICA海外協力隊がもつ可能性。

今が掛け合わせ時かもしれないし、もう少ししてからかもしれない。あなたのもつ可能性を見つけるために、まずは知ることから始めてみませんか。

『人生なんて、きっかけひとつ』

JICA海外協力隊 個別相談サロンをお気軽にご利用ください。

- ◆「自分でも参加できるのかな?」、「興味はあるけど自分ができることであるのかな?」、「大勢の前だと聞きづらい質問があるから個別に話したい」。。関心を持ったことは大きなきっかけ!基本的な情報だけでなく体験談もお話できます☆
- ◆「帰国してから何かサポートってあるのかな?」、「自分のキャリア形成の選択肢として海外協力隊はあっているのかな?」。。進路カウンセラーも在籍!応募前から帰国後の進路までご相談ください☆
- ◆「海外で暮らしながらボランティアってどんなことをやるんだろう?」、「途上国での暮らして大丈夫なのかな?」。。海外協力隊として活動した経験を持つスタッフが実体験を交えてお話しします☆
- ◆「応募書類の記入方法に不安がある」、「自分の言いたいことが応募書類に表現できているかな?」。。カウンセラーがあなたと一緒に思考整理をお手伝いします☆

【JICA山形デスク(村岡)】

あなたの近くにも個別相談できる場所があります!

2022年4月までケニアにてJICA海外協力隊として活動していました。隊員としての活動、現地での生活などお気軽にご相談ください。

随時個別相談受付中!

JICA海外協力隊
個別相談サロン

JICA東北では、JICA海外協力隊に参加経験のあるスタッフや進路相談カウンセラーが協力隊に対する疑問や不安にお答えします。

★JICAでは学校現場における開発教育を推進する事業を行っています。お気軽にお問合せください。



JICA山形デスク

Tel. 023-646-6267

✉ jicadpd-desk-yamagataken@jica.go.jp



山形県国際交流センター 施設案内



開館時間 9:30~18:00

休館日 月曜、祝日、年末年始

予約
必要

<仙台出入国在留管理局の専門相談会>
偶数月第3金曜日 10:00~12:00

<外国人向け法律相談>
毎月第4金曜日 10:00~12:00

山形市城南町一丁目1-1
霞城セントラル 2階
TEL:023-647-2560
FAX:023-646-8860

<交流サロン>

日本語・外国語の新聞、国際関係資料の閲覧、インターネット接続パソコンの利用などができます。図書コーナーでは、英語、中国語、韓国・朝鮮語など、外国語の書籍の貸出も行ってあります。お気軽にご利用ください。

<企業向け外国人相談窓口>

「外国人を雇用する際の手続きについて教えてほしい」「技能実習生の受け入れ手続きについて知りたい」など企業からの悩みに対応しています。

TEL 023-645-7600

FAX 023-646-8860

Mail kigyosodan@airyamagata.org

相談日 火~金曜日 10:00~16:00

出張講習会も承ります

県行政書士会 対応相談会

毎月第2水曜日
13:00~16:00

予約不要

<研修室・ボランティア室>

国際交流・国際協力に関する会議、研修、イベント等に無料でお貸しします。研修室の利用は予約が必要です。利用の際は感染防止対策にご協力ください。

<外国人相談窓口>

県内に住んでいる外国人やそのご家族の方のための相談窓口を開設しています。日常生活での困りごとや在留資格など様々な手続きに関する相談を、日本語と外国語で受け付けています。

TEL 023-646-8861

Mail soudan@airyamagata.org

言語	曜日	相談受付時間
英語・日本語	火~土	10:00~17:00
中国語	火・金	10:00~14:00
ポルトガル語	水	
韓国・朝鮮語	木・土	10:00~14:00
タガログ語	金	
ベトナム語	第2・4土	



LINEやFacebookでも相談できます。リンクはこちらの二次元コードから



「やさしい日本語」をご存じですか



「やさしい日本語」とは、普通の日本語より簡単で、外国人などにも分かりやすい日本語のことです。
例えば...

土足厳禁!



「やさしい日本語」でいうと
**くつを
ぬいでください**

できるだけ公共交通機関を使って、ご来場ください

「やさしい日本語」でいうと
**電車やバスに
乗ってきてください**

日本に住む外国人が増え、その国籍も多様化する中で、日本に住む外国人に情報を伝えたいときに、多言語で翻訳・通訳するほか、「やさしい日本語」を活用することが有効です。

当協会では、県内における多文化共生社会づくりを促進するため、「やさしい日本語」の出前講座を実施しています。ぜひご活用ください!

編集後記

「外国人向け防災体験会」の記事を作りながら、私が海外で自然災害に遭ったときのことを思い出しました。

米国でトランジットした際ハリケーンがすぐそばまで迫っており、空港で「あなたのフライトはキャンセルされた」と言われたのです。ホテルの確保もできず、テレビでは何度も緊急ニュースが流れていました。空港はだんだん人がいなくなり、暗い中毛布と水が配られ、トイレも荒れていき、「私はここでどうなるの」と青くなりました。そもそもハリケーンに対する知識がなく泊る場所もない上、独りで治安も心配だったからだと思います。

在住外国人は地震などの経験が少ないため、発生時に恐怖を感じやすいと言われています。

AIRYの事業などが事前知識を得る一助になればと思います。

